

Lesson 8 ペイントツールの使い方を学ぶ

完成例

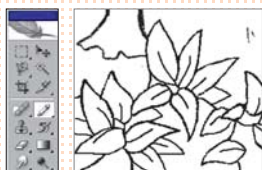


■ デザインスクール ▶ ■ Lesson08

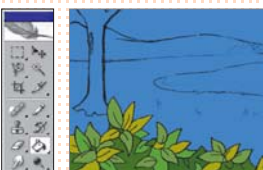
➤ Photoshopには、アートワークを描画するための非常に強力なツールが数多く用意されています。表現できるグラフィックは実に多様で、無限の可能性を秘めているといつていいでしょう。このLessonでは作例を元にして、Photoshopでの基本的なペイントツールの使い方や特徴を手順を追って学びましょう。

▶ レッスン項目

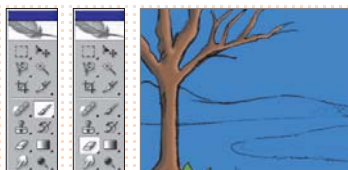
A 鉛筆ツールで描画する



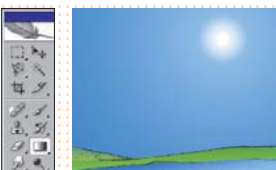
B 塗りつぶしツールで着色する



C ブラシツールと消しゴムツールを使う



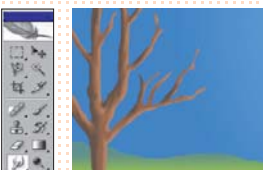
D グラデーションツールで描画する



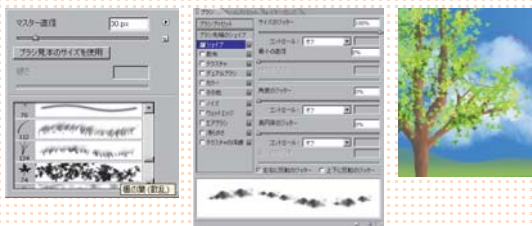
E ぼかしツールでなじませる



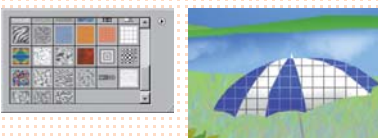
F 指先ツールで色を伸ばす



G プリセットブラシの変更とカスタムブラシの作成



H パターンを利用する

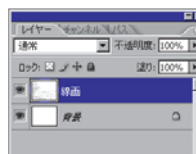


A 鉛筆ツールで描画する

「鉛筆ツール」はアンチエイリアスのかかっていない、ピクセルの境界がはっきりとしたラインを描くことができます。そのため色数の限られているWeb用の画像や、パソコンで使用するアイコン等の作成に向いています。

鉛筆ツールで葉脈を描く

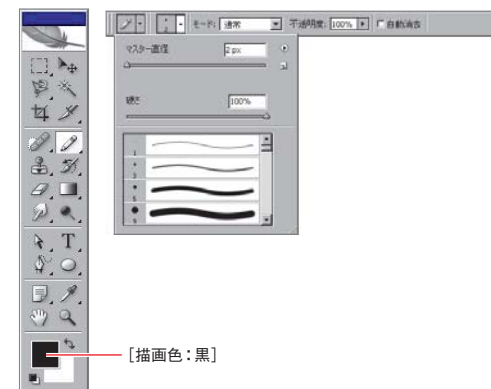
1 [ファイル→開く...]を選びます。「08_start.psd」を選択し、「開く」をクリックします。[ファイル→別名で保存...]を選び保存先を指定します。ファイル名を任意に入力して「OK」をクリックします。このファイルにはあらかじめ紙に描いた鉛筆画をスキャンした画像が「線画」というレイヤーに配置されています。この素材を下絵にして、それぞれのツールを実際に使用しながら着色・描画していきます。



2 ツールボックスから「ズームツール」を選択し、作例の左下にある植え込みの部分を拡大表示してみます。上にある木のラインなどと比較してみると、この植え込みの部分のみグレーなどの中間色を使用されておらず、アンチエイリアスのかかっていないラインで描画されているのがわかります。「鉛筆ツール」では、このようなラインを描画できます。



3 ツールボックスから「鉛筆ツール」を選択します。オプションバーの「ブラシプリセットピッカー」を開いて[マスター直径：2 px]、[硬さ：100%]に設定します。さらに[モード：通常]、[不透明度：100%]となっているのを確認し、[描画色：黒]に設定します。



MEMO

完成したファイルを参照するには、「08_end.psd」を選択し、「開く」をクリックします。

POINT

オプションバーで[自動消去]にチェックを入れると、描画色を含む領域からドラッグをはじめたときに、背景色でラインを描画します。たとえば、今回のように白地に黒いラインを描いていく場合、[描画色:黒]、[背景色:白]に設定しておけば、白地の箇所でもドラッグを開始すると黒でラインを描画でき、すでにラインを描いた黒の箇所でもドラッグを開始すると白で描画するためラインを消去できるので、修正時に描画色を切り替える必要がなくなります。

4 レイヤーパレットで「線画」レイヤーをクリックしてアクティブにし、「鉛筆ツール」でこの植え込みの葉の内側に葉脈などのラインを加えます。ほかにも好きなどをドラッグして、自由にラインを描いてみましょう。アンチエイリアスのない、輪郭のはっきりしたラインが描画できます。このラインは白地に黒いラインで描かれていますので、ラインを修正したいときは、描画色を白にしてドラッグすれば消えます。



B 塗りつぶしツールで着色する

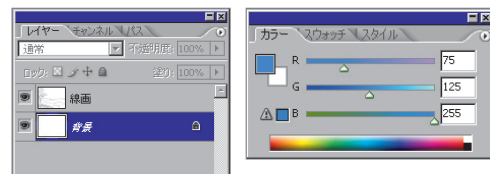
「塗りつぶしツール」は、クリックした箇所のピクセルを中心として、指定した範囲の近似色を描画色で塗りつぶすツールです。似た色の部分や選択領域など、特定の範囲を塗りつぶしたいときに使います。

塗りつぶしツールで草や背景を着色する

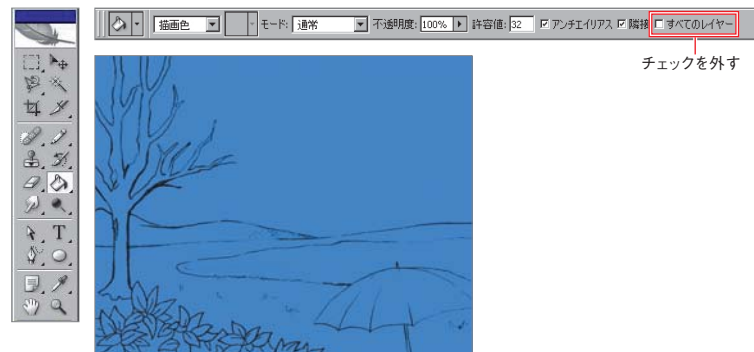
1 「塗りつぶしツール」を使って画像の最背面となる空の部分着色します。以降の作業の準備として、レイヤーパレットで「線画」レイヤーをクリックしてアクティブにし、パレット上部左の「描画モード」を[乗算]に設定して、見た目上、黒いラインのみが下のレイヤーに影響するようにしておきます。



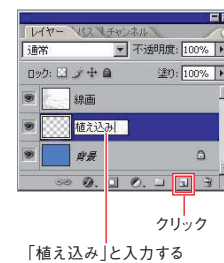
2 レイヤーパレットで「背景」レイヤーをクリックしてアクティブにし、カラーパレットで描画色を[R75 / G125 / B255]に設定します。



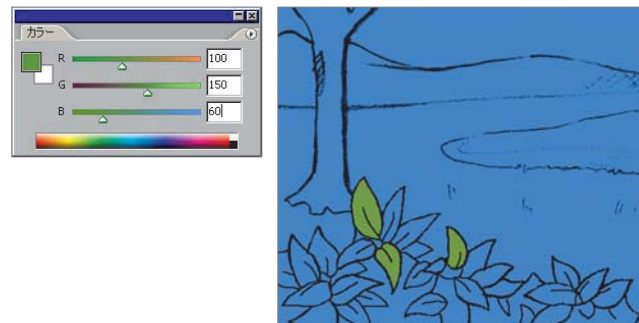
3 ツールボックスで「塗りつぶしツール」を選択し、オプションバーを[描画色]、[モード:通常]、[不透明度:100%]、[許容値:32]に設定して、「すべてのレイヤー」にチェックが入っていないことを確認します。続いてドキュメントウィンドウ内をクリックすると、描画色の青で着色され、背景がブルーになりました。描画モードを[乗算]に設定した「線画」レイヤーのラインの部分が、色が重なって表示されていることに注目しましょう。



4 今度は先ほど描画した植え込みの部分を「塗りつぶしツール」で着色してみましょう。「背景」レイヤーをクリックしてアクティブにし、レイヤーパレット下部の[新規レイヤーを作成]ボタンをクリックして、「線画」レイヤーと「背景」レイヤーの中間に新しいレイヤーを作成します。わかりやすいように、このレイヤーの名前を「植え込み」と変更しておきます。



5 このレイヤーに着色していきます。まず、「塗りつぶしツール」のオプションバーで[すべてのレイヤー]にチェックを入れます。描画色を[R100 / G150 / B60]に設定したら、植え込みの葉の部分をクリックします。「線画」レイヤーのラインが境界となり、葉をきれいに塗り分けられます。



HINT

塗りつぶしを行う際は、「塗りつぶしツール」のほかに[編集→塗りつぶし...]のメニュー選択や、次のショートカットキーが使用できます。
 ・描画色で塗りつぶす:
 [Alt] + [Option] + [Delete]
 ・背景色で塗りつぶす:
 [Ctrl] + [95] + [Delete]

POINT

「塗りつぶしツール」の[許容量]では、ツールでクリックしたときに、そのピクセルの色とどの程度近い色を「近似色」として認識するかを数値で設定できます。

HINT

レイヤー名を変更するには、レイヤー名をダブルクリックして名前を入力します。

MEMO

[すべてのレイヤー]にチェックを入れると、すべてのレイヤーに塗られた色を基準にして、塗りつぶす近似色の範囲を制限できます。このチェックを外すと、アクティブなレイヤーに塗られた色しか基準となりません。

ATTENTION

レイヤーパレットで描画モードを[乗算]に設定しても、この時点では見た目の変化はありません。

MEMO

カラーパレットで色を変更するには、数値を直接入力するかスライダを移動します。